

神崎市民の願いを国に届ける

要望書

(原文を一部抜粋して掲載しています。)

クリークの保全対策について

- 1 今後のクリーク整備について、コスト低減や維持管理等を踏まえた新たな工法の開発に向けた調査・検討。
- 2 これまでのクリーク整備については、県営クリーク防災機能保全対策事業や維持管理適正化事業等により整備してまいりましたが、更なる整備促進のために、地元負担の軽減を含めた整備手法の検討。

クリーク保全における実情をご理解いただき、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。



農林水産副大臣へ要望書を提出

城原川の河川整備について

神崎市を縦断する城原川は、古くから農業用水や環境用水として地域住民の生活に欠かすことの出来ない財産であることは言うまでもありませんが、出水時には洪水を流すことができる河道断面の不足と相俟って典型的な天井川であることから、氾濫や破堤に対する地域住民の不安は幾ばくのものではありません。

つきましては、地域住民の生命財産と安心・安全な生活を守るため筑後川水系河川整備計画に基づく城原川河川整備について、より一層の推進を強く要望いたします。

意見書

●諫早湾干拓事業に対する福岡高裁の判決を受けて、中・長期開門調査の早期実施を求める。

●国立病院の廃止・縮小・民営化に反対し、地域医療と国立病院の充実を求める。

産業建設常任委員会研修

去る10月25日、農産物直売所 菱の里ちよだ(菱の里ちよだ出荷協議会)と現地にて又、JA神崎郡支部役員(6名)と意見交換を議会委員会室にて行った。

菱の里出荷協議会意見交換は、農産物直売所 菱の里ちよだの現状をいかに活気ある店づくりにするかを、出荷協議会と当委員会の間で意見を出し合った。神崎市民地域住民への直売所PR営業日数品揃え等の基本を再検討と思われる。

JAとの意見交換では、神崎市の基幹産業の農業振興について、現在の市農業の現状とJAの重点方針平成23年～平成24年度農業振興の重点取り組み事項等や平成23年度からスタートする畑作戸別所得補償について又、JAの重点取り組み事項について意見を出し

合った。農業振興は農業者、JA、行政が情報の共有化を図り前向きな行動が肝要と思われる。



菱の里ちよだ出荷協議会との意見交換会

議会運営委員会 行政視察研修

平成22年度の行政視察研修につきましては政務調査費の活用及び議会運営全般についてを研修項目といたしました。視察研修地としては、長崎県の松浦市議会と平戸市議会を研修いたしました。松浦市は、平成18年1月1日結びつきの強かった松浦市・福島町・鷹島町の1市2町が合併し松浦市が誕生しました。人口については24,939人と年々減少している状況であります。松浦市議会の政務調査費につきましては、交付対象となる会派（1人の場合を含む）に対して、年額12万円が交付されています。食料費については支出されていない。携帯電話費については、会派の携帯電話であれば支出は必要である旨の見解をなされました。次に市議会の概要ですが、議員定数は法定定数26人、条例定数19人となっています。一般質問時間は答弁を含めて70分以内、議員定数報酬等についての見直しはあっていないとの事でした。

平戸市については、平戸島、生月島、大島、度島、高島の有人島及び九州本土西部の沿岸部に位置する田平と周辺の島々で構成されています。人口は37,221人と年々減少しています。政務調査費は、会派（1人の場合を含む）に対して、年額12万円が交付されています。食料費については支出されていないが、特別に必要であれば協議される。他に委員会研修費が1人15万

円です。議員定数は法定定数26人、条例定数26人、現議員数23人となっています。一般質問は議会運営委員会において質問順位はくじ引きとし、質問時間は答弁を含めて60分で関連質問は認めないとの事でした。議員定数報酬の更なる見直しについては、特段の取り組みは無いとのことでした。

現在神崎市議会議会運営委員会といたしましても、議会が担うべき役割を果たす為に市民の付託に答えられる議会運営の実現、活性化の取り組みを推進していかなければならないと思っています。



議会運営委員会行政視察研修（長崎県平戸市役所）

議会広報編集特別委員会 行政視察研修

議会広報編集特別委員会は11月16日・17日に、福岡県うきは市議会及び宮崎県高千穂町議会において、議会だよりの編集についての研修を行いました。うきは市議会だよりでは、「読む公報」よりも「見る広報」をテーマとして、文字数をなるべく少なくし、中学生にも分かる表現を用いるように心掛けているとのことでした。読者の目をひくようにタイトルを大きく見やすいデザインにし、写真も多く掲載されていました。

次に、昨年に引き続き宮崎県高千穂町議会を訪ね、前回の研修をもとに改善した点を含めて意見交換を行いました。議会目線ではなく、市民のための議会だよりかどうか、広報作成の原点であると話され、町民に親しみを持ってもらえる紙面づくりを念頭において作成されていました。

今回の研修成果を活かし、各議員の協力をお願いしながら、市民に楽しみに読んでいただけるような議会だよりを目指して、編集活動に取り組んでいきたいと思っています。



研修の様子（広報編集特別委員会）